

## 北朝鮮と弾道ミサイル潜水艦

漢和防務評論 20141201 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

安倍首相の奇襲的衆院選挙も勝利に終わり、今年も残りわずかとなりました。漢和防務評論に北朝鮮の弾道ミサイル潜水艦に関する記事がありましたので紹介します。

同記事の趣旨は、現在北朝鮮は弾道ミサイル潜水艦は保有しておらず、建造を開始した形跡も見えないが、ROMEO 級潜水艦を中国の援助で自力生産しており、弾道ミサイル SCUD も生産していることから、論理的に弾道ミサイル潜水艦を開発するはずだ、としています。

中ソもかつては、この段階を踏んで弾道ミサイル潜水艦を開発しているので、常識的に見てこうなるはずと述べています。写真を添付します。

平可夫

北朝鮮の武器装備開発の動向は、外部世界にほとんど知られていない。しかし国際情報筋、政府及び民間レベルの情報消息筋は、内部事情の一部を掌握している。これらの内部事情は、確認する方法は無いとしても、客観的に見て論理にかなっている。また一部の情報は政府系のハイレベルの情報専門家から得たものである。例えば、西側の政府系情報専門家は **KDR** に対し次のように述べた：北朝鮮とイランは、聯合してイラン国内でロケット弾頭が 3000 度に達する再突入実験を行った、と。また日本の情報専門家は次のように述べた：北朝鮮の第 3 回目の核実験は、イランのために行ったものであり、交換条件として、北朝鮮は、イラン国内で北朝鮮版の **SS-N-6 (MUSUDAN)** 弾道ミサイルの実験を行った。後者の設計図はロシアから秘密裡に入手したものである、と。

またごく最近、政府系の情報消息筋は：北朝鮮は、現在潜水艦発射弾道ミサイルを開発中であり、将来核弾頭を装備する、と述べた。上述の情報はどの程度信用できるのか？確かめる方法は無いが、武器開発の一般的な論理に従えば、北朝鮮が潜水艦発射弾道ミサイルを開発する可能性は常識の範囲に含まれる。ソ連も中国もこの段階を歩んできており、ソ連は、通常プロジェクト 611 として、**ZULU** 級潜水艦を基礎にして改良し、**SCUD** 型弾道ミサイルを搭載、弾道ミサイル潜水艦に進化させた。北朝鮮は、大量の **ROMEO** 級潜水艦を保有しており、早い時期に中国の支援の下、自力で **ROMEO** 潜水艦を組み立てている。同様に北朝鮮は、**SCUD** を基礎にして、自国の弾道ミサイル工業を発展させている。

中国海軍については、ソ連の設計図を基に **GOLF** 級弾道ミサイル実験潜水艦を自力で建造し、早期の **JL-1** 型戦略弾道ミサイルの実験を行った。したがって北朝鮮

が弾道ミサイル潜水艦を開発するかどうかは、能力にかかっている。北朝鮮は、潜水艦もミサイルもすでに保有している。どのように組み合わせ、改装するか？北朝鮮の能力を過大評価すべきではなく、また過小評価すべきでもない。北朝鮮は、本来 ROMEO 級の組立及び 500 トン級小型潜水艦の生産能力はある。作戦能力については、たとえ ROMEO 級を基礎にして SCUD ミサイル（北朝鮮版）を搭載した潜水艦を造ったところで、NATO 標準の潜水艦レベルではなく、巨大な噪音により米国海岸に近付けず、直ぐ発見されてしまうだろう。しかしこれは技術の問題であって、政治的には北朝鮮版弾道ミサイル潜水艦の出現は、無視できない極めて大きな政治的な意味あいを持つ。

北朝鮮の ROMEO 級潜水艦（中国では 033 型）の組立は 1971 年から開始された。プロジェクト名は、13 号工程であり、新浦（SINPO）の六台造船所で行われた。このプロジェクトでは中国の江南造船所が北朝鮮に対し 12 艘分の 033 型潜水艦の半製品を提供した。1973 年 2 月 16 日、最初の半製品が北朝鮮に発送され、同時に 38 項目の生産技術、機械設備が提供された。最初の組立では 244 名の中国技術者が支援し、手動溶接、自動溶接などで北朝鮮技術者を養成した。同年、北朝鮮は 107 名の技術者を中国江南造船所に派遣し技術を習得させた。このプロジェクトは 1979 年に完了した。第 9 番目から 11 番目の潜水艦が進水した後、12 艘目から北朝鮮は自力で組立てを開始した。進水作業及び海上試験は北朝鮮が行った。

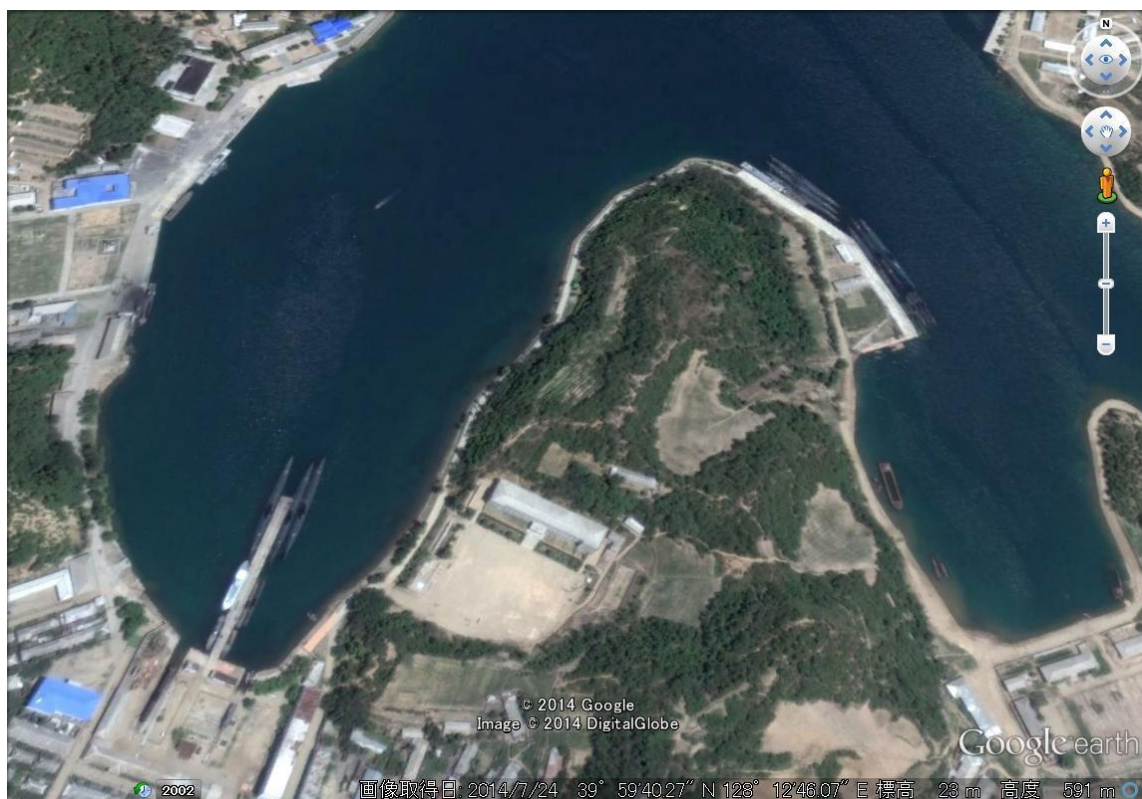
当時北朝鮮の ROMEO 級潜水艦組立支援に参加した中国専門家は中国メディアに対し：設計図は全て北朝鮮に提供した。同時に六台造船所に浮きドックを 1 台建造した、と述べた。

これらのことから、北朝鮮の ROMEO 級潜水艦に対する組立、修理技術は基礎が出来ていると思われる。これを基礎にして、状態の良い 1 乃至 2 艘の ROMEO 潜水艦を改装すれば、弾道ミサイル潜水艦にすることは不可能ではない。したがって KDR は、2013 年以降、北朝鮮造船所における潜水艦の修理状況に特に関心を持っている。

六台造船所の衛星写真は、2013 年 10 月 30 日のものだ。この造船所の全ての設備を詳細に検討したが ROMEO 改装の形跡は発見できなかった。175 M 長さのドックには 1 個の単辺起重機が、101 M 長さのドックには 1 個の竜門起重機が見られた。この造船所内には、39 M 長さの潜水艦が 1 艘発見できた。これは北朝鮮製の SHANG-O 級の 500 トン潜水艦である。YUTAE-DONG 造船所には、192 M 長さのドックと竜門起重機が 1 個ある。上述の 3 個のドックには潜水艦改造の動きは見られなかった。日本海に面する大型潜水艦基地は以下の通りである：1. MAYANG-DO 島上には、13 艘の ROMEO が停泊していた。これは 1979 年以降、北朝鮮が更に多くの ROMEO を国産したことを意味する。或いはその他の社会主義諸国から獲得したか？1 つのドックには 1 つの起重機がある。またこの基地は大量の SHANG-O 級小型潜水艦を有していた。IWON と SINCHUNG の間には、地下化された潜水艦基地があり、ROMEO と SHANG-O 級の両種の潜水艦を有しており、水上出口が 2 つある。ROMEO が 6 艘、SHANG-O 級等の小型潜水艦が 6

艘以上である。これが日本海西海岸の北朝鮮 **ROMEO** の全てであり、総数は 19 艘である。これは 2013 年 9 月の写真である。結論は：2013 年に至るまで、六台造船所には **ROMEO** 改造の形跡は見られなかった。室内船台も発見できなかった。しかし北朝鮮がこの種の計画を持っていないとは断定できない。ソ連が弾道ミサイル潜水艦を開発した論理から判断すると、北朝鮮は一定の改造技術、能力がある。2014 年、北朝鮮は、金正恩が **ROMEO** 級潜水艦を視察している写真を公開した。これは彼が潜水艦作戦を重視していることを確かに示している。公開された写真では **ROMEO** 潜水艦が草緑色に塗装されていた。喫水線の下のだら模様を見ると、出海訓練が少ないようだ。光学潜望鏡も旧式だ。

以上



**MAYANG-DO 島の潜水艦基地**

## 北朝鮮想發展彈道導彈潛水艦



629A SSN

629A型潛水艦